

さんがせ
三ヶ所遺跡

所在地 日進市浅田町地内
(北緯35度7分47秒 東経137度1分20秒)
調査理由 県道岩崎名古屋線道路改築
調査期間 平成16年10月～12月
調査面積 880㎡
担当者 永井宏幸



調査地点(1/2.5万「平針」)

調査の経過 調査は、県道岩崎名古屋線道路改築の事前調査として、愛知県道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成13年度(1,550㎡)と平成14年度(370㎡)の2次にわたりおこなっている。今回は3次調査にあたり、平成16年10月から12月にかけて実施した。調査面積は880㎡である。

立地と環境 三ヶ所遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道153号線バイパス浅田西交差点の北東500mに位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は28m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した西田面遺跡が500m南西にある。

調査の概要 調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

古代の遺構としては、溝SD605と土坑SK704が確認された。SD605は南東から北西にむけて蛇行する自然流路と考えられ、現在の三ヶ所交差点に向かって天白川へと流れ込むと推定できる。流路の堆積は粗粒砂から砂礫層であり、この中から大量の灰釉陶器碗・須恵器などが出土した。SK704は調査区南壁にあり、調査区外へ延びる方形状の落ち込み。炭化物層が上層を覆い、その下部から把手付灰釉陶器小瓶片が出土した。中世の遺構としては、ほとんど近現代の整地により削平を受け、痕跡程度の溝が数条確認されたのみである。今回もっとも多く確認された遺構は、近世以降の土坑である。遺物をほとんど含まない人為的に埋めた土坑。性格は不明なもの、7基以上の土坑が縦列に並ぶ。この他、調査区を南東から北東に縦断する水路が2条ある。検出当初にビニールなどが混在していたので耕地整理直前まで使用していた水路と判断した。(永井宏幸)



04A区全景



縦列配置の土坑群